

入選

水の循環

茅ヶ崎市立鶴嶺中学校 三年 小林 啓太

私の住んでいる家の近くには小出川という川が流れています。以前、私はクラスで飼う魚を用意するために、この川の上流へ出かけたことがあります。上流であれば水もきれいで、多くの魚がいるだろうと期待していたからです。しかし、現地に着いて目にしたのは、期待していたものとは全く違う光景でした。川岸や水面には、プラスチック容器や古びたタイヤ、家庭から出たと思われる粗大ゴミがいくつも沈んでいました。魚が潜んでいそうな場所にもゴミが溜まっており、釣糸を垂らす前に、その汚染された状況に強いショックを受け、とても悲しい気持ちになりました。

この経験を通して、私は水の問題を自分自身の課題として捉えるようになりました。それまでは、蛇口から出る水と、目の前を流れる川の水は別物だと考えていました。しかし、私たちが川に捨てたゴミは水質を悪化させ、巡り巡って私たちに對して牙を剥きます。小出川の上流で見たゴミは、誰かが「自分一人くらいなら大丈夫だろう」という軽い気持ちで捨てたものかもしれませんが、しかし、その積み重ねが川の汚染につながり、生き物が住めない環境を作り出しているのです。

私はこの日を境に、日常生活における水の扱い方を改めました。まず徹底したのは、ゴミの分別とポイ捨てを絶対にしないことです。川を汚す原因の多くは、私たちの生活圏から流れ出すゴミであることを学んだからです。また、家庭内でも、食べ残しをそのまま流しに捨てない、洗剤を使いすぎないといった、水質の汚染に係る行為はやらないというルールを家族で決めました。

さらに、水そのものの使い方も変わりました。かつては、一度汚れた水も浄水場で処理されれば元通りになると安易に考えていました。しかし、一度汚染された水を再び私たちが利用できる状態にするには、多くの時間とお金がかかります。小出川で見たゴミを取り除く大変さを想像

すれば、最初から汚さないこと、そして使う量を最小限に抑えることがいかに大切かがわかります。

小出川の上流での体験は、私に「水は循環している」という事実を分からせてくれました。川が汚れば、それは私たちの生活を支える基盤が壊れてしまうことを意味します。中学生である私にできることは限られています。まずは自分自身が川を汚さない一員となり、節水を心がけることから始めたいと思います。身近な小出川をきれいに保つ努力を続けることが、将来にわたって豊かな水資源を守ることにつながると信じています。